

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol consumption and suicide mortality among Japanese men: the Ohsaki Study 日本人男性における飲酒量と自殺死亡の関連の検討	
執筆者 Naoki Nakaya , Nobutaka Kikuchi, Taichi Shimazu, Kaori Ohmori, Masako Kakizakik Toshimasa Sone, Shuichi Awata, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol 2007,41 503-510	
キーワード 多量飲酒、自殺、日本人、飲酒量	
要 旨 (目的) 大量飲酒者において自殺のリスクが増加していることは良く知られている。しかし、少量飲酒者において自殺の危険性が増加しているか否かはいまだ議論の最中にある。我々は日本人男性地域住民集団においてこの関連を調査した。 (方法) Ohsaki 研究は 40 歳から 79 歳の日本人男性地域住民における前向きコホート研究である。1994 年 10 月から 12 月にかけて宮城県の男性 22804 人を調査し、飲酒習慣を含む健康に関連する生活習慣について質問を行った。 (結果) 7 年間の観察期間中 73 名が自殺した。Cox 比例ハザード回帰モデルにて自殺死亡のハザード比を一日の飲酒量により求めた。交絡要因は調整した。飲酒量と自殺のリスクには統計的に有意な正比例の関連を認めた。多変量調整ハザード比ならびに 95%信頼区間は非飲酒者を対照とすると現在の飲酒量 22.7g 以下,22.8g-45.5g,45.6g 以上では 1.2 (0.5-2.7) 、1.5 (0.7-3.4) (傾向性の $p=0.16$)であった。早期死亡者を除外した検討でも飲酒量と自殺のリスクは正比例の関連を認め、少量飲酒者の自殺リスクは統計的優位でないものの非飲酒者より高かった。(多変量調整ハザード=1.7) (結論) この前向きコホート研究により飲酒量と自殺リスクは正比例の関連を示すことが明らかとなった。そして少量飲酒者であっても自殺リスクは非飲酒者ほど低くないことが明らかとなった。	